

はじめに

多くの皆様にご協力いただいた「子どもの生活リズム向上のための調査研究」が報告書となりました。アンケートに回答や意見を寄せていただいた保護者や子どもの皆様をはじめ、調査用紙の配布や取りまとめの労をとってくださった先生方、地域で様々な実践活動の工夫をしてくださった方々、ご協力をいただいたすべての方々に、あらためて御礼申し上げます。

このような調査については、様々なご意見があるかと思いますが、睡眠や食事等の生活リズムが、身体や生活の基本をなす大切な部分であること自体は、おおかた一致できるのではないのでしょうか。けれども、子ども達を取り巻く現代の社会的環境、あるいは家族が直面している生活や仕事の現実、育ちの土台を形づくると言われる子どもの時期に様々な影響をもたらしています。

今回の調査結果では、学年が上がるほど、就寝時刻や起床時刻は遅くなっていたり、朝食を摂る率が低くなったりという傾向が見られます。

小学校高学年から中学校にかけては、それまでの保護者や大人の与えた枠から抜け出し、あるいは反発しながら、新しい自己像をつかもうと苦勞する時期であると言われる。「親の言うことを聞かなくなった」(アンケート回答より)というのは、むしろ自立に向かって自分をつくりつつある途上の姿として当たり前なのかもしれません。またそのような発達の側面だけでなく、大人も子どもも生活が大変忙しく、帰宅が遅くなったり余裕のないものとなっていたりすること、ファストフード店をはじめとした店の深夜に及ぶ営業やパソコン・携帯メールがもたらす様々な影響等、個々の家庭では対処しきれない状況について、考え合っ変えていく必要性について、家庭教育支援協議会でも議論があったところです。

調査の自由記述欄には、それぞれのご家庭での実状、悩み、工夫、提案等について、たくさん記入していただきました。本報告書では、十分整理することができませんでしたが、数字の背後にあるこうした思いやご意見を是非お読みいただきたいと思います。各ご家庭で、あるいは子どもを取り巻く大人達が集う場で、悩みや工夫も出し合いながら、話し合い考え合うきっかけの一つとして、本報告書を使っていたいただければ幸いです。

滋賀県家庭教育支援協議会

会長 加用美代子